

佐野文庫（敬徳書院蔵書）の概要と主たる内容

文庫の概要

佐野文庫（敬徳書院蔵書）は故佐野泰蔵氏（元新潟高校教諭）の秘蔵にかかり、同氏の祖父喜平太氏（代議士・地主）が明治・大正年間に集められたもので、総数五千二百三十七部二萬四千六百三十八冊と古文書類にわたり新潟県下は勿論広く天下に著聞せる集蔵書である。その内容は、文学・儒学・史学・語学を中心とする和漢の典籍及び地方古文書で、各般の分野の主要な文献が揃えられている。それはたゞに量的豊富さを誇るのみならず、質に於ても今日入手困難な古板本・古写本・渡本を多く含み、また東条琴台・塙保己一・松平定信・吉見幸和・岸本由豆流等名家・学者の旧蔵・書入・自筆本も多く、未刊本をも多数含む点に於て、学術研究上及び国語国文・歴史・中国哲学・日本思想・経済・法制・科学史その他大学図書館の基本蔵書として多大の価値を有する。

文庫の内容

△国書▽ 写本には萬葉集、源氏物語、浜松中納言物語、岩清水物語、横河物語、平家物語、節付うたひ本、六家集、壬二集、草堂集、良寛道人遺稿等、板本には萬葉集、真名伊勢物語、宇都保物語、栄花物語、平家物語評判秘伝抄、太平記、義経記、廿一代集、八代集抄、西鶴置土産等があり、いずれも今日では

入手困難もしくは優秀な古板である。その他歌合、俳諧、各流謡本、韻鏡の類をはじめとして、近世の随筆、雜纂等の板本が多数あり、国語・国文の研究上その価値は多大である。

△漢籍▽ 十三經注疏、皇清經解、広漢魏叢書、知不足齋叢書、竜威秘書、経籍纂詁、三礼義疏、子史精華、十子全書、漢魏六朝百三名家集、全唐詩、太平広記、歐陽文忠公全集、蘇東坡全集、朱子語類、朱子文集、王船山遺書、陔餘叢考、佩文韻府、文獻通考、淵鑑類函、四庫簡明目録、四庫総目、金石萃經等の多くの叢書、類書、全集をふくみ何れも研究の文献資料として貴重であり、その他単刊本にも有益なものが少くない。又日本儒者の著作として甘雨亭叢書及び同未刊本その他多数がある。

△史籍▽ 島津本東鑑、御江戸切絵図、寛文日記、官版実測日本地図、刑罪大秘録、佐渡金山誌絵、雪華図説大系図、大内裏全図、武徳編年集成、室町紀略、鳴鳳要略等は市場に容易に求めることのできないものであり、又塙保己一、屋代弘賢、松平定信、吉見幸和、岸本由豆流等の名家の旧蔵、及び書入本があり、六国史以下の主要な史籍の写本及び版本を揃えてあり、現行活字本の欠陥を補い、未刊本を多数含む点で歴史研究上多大の価値を有する。

△古文書▽

京屋文書……出雲崎尼瀬町の肝煎で廻船問屋であつた野口家の文書で、元和より明治に至る御用船明細帳、為替証文、検地帳、土地証人、金融貸借証人、尼瀬油田開鑿書類等を含む。野口家没落により佐野家に入ったものである。

佐野家文書……近世後期に廻船問屋（関東屋）兼地主として勃興した佐野家の文書で土地証文、大福帳、地租改正関係書類が大部分で、商人資本家の地主化を物語る資料として意味がある。